令和 4 年 • 長崎県立長崎図書館郷土資料センター開館 展示概要

長崎の郷土資料収集の軌跡

~これまで収集してきた資料、これから収集する資料~



県立長崎図書館 大正 4(1915)年以降



県立長崎図書館 昭和 35(1960)年以降



令和 4(2022)年 県立長崎図書館郷土資料センター

令和4年3月27日~6月26日(日曜日)

はじめに

長崎県立長崎図書館郷土資料センターは、県立長崎図書館がかつて立地していたこの地に改めて開館する運びとなりました。この令和4年は県立長崎図書館の創立110周年でもあります。長崎市内はもとより、県全域に奉仕する図書館として、県立長崎図書館は明治45年、当初は新橋町(当時)に開館しました。その後、大正4年、御大典記念事業として現在地にあった元県会議院兼迎賓館の交親館を改修して移転しました。

長崎の郷土資料は、明治以降の地元の文化人、特に長崎の姿を後世に 伝えなければならないという使命をもって活動して来られた方々の強 い思いがあって、今に残されています。その活動の一端を県立図書館が 担ってきました。資料収集に関わってきた先人の思いを大切に、今後も 郷土資料の収集・保存に努め、多くの方々が利用できるよう努めていき ます。

> 令和4年3月27日 長崎県立長崎図書館長

年	月	郷土資料の資料収集状況
明治 26(1893)年	9	安中半三郎・香月薫平らが文書資料の散逸を危惧して文庫創設を計画
明治 27(1894)年	5	長崎市の文化人が私設図書館「長崎文庫」(新橋町)創設
明治 29(1896)年	6	長崎文庫を一般公開
明治 30(1897)年	8	長崎文庫、引地町(41番戸2号)へ移転、その後長崎商品陳列所内へ移転
明治 45(1912)年	6	本館創立(新橋町)、長崎県回覧文庫・荒川知事記念文庫も引継ぎ、当時の蔵書は 2,400 冊、長崎文庫収集資料の寄託
大正 4(1915)年	8	専任館長永山時英就任、以後資料収集に尽力(昭和 10 年まで 20 年間館長を務める)
大正 4(1915)年	11	新橋町から上西山町1番地に移転、迎賓館兼県会議場「交親館」を増改築
大正 5(1916)年	9	長崎文庫の収集資料を寄贈受入
大正 8(1919)年	_	旧長崎奉行所諸記録など県古文書 1000 余点寄託 (※寄託台帳では大正 5 年 12 月付)
大正 9(1920)年		諫早家の古文書 1000 点余り寄託(平成 13 年に諫早市へ寄託替え、翌年寄贈)
大正 12(1923)年		『郷土志料目録』(大正 12 年 12 月末現在)刊行、長崎奉行所文書や明治初年の行政文書(県庁文書)、諫早文庫が寄託資料として掲載
大正 14(1925)年		小曽根家蔵書寄託
大正 15(1926)年	3	シーボルト先生遺品寄託
昭和 5(1930)年	2	寄託中の県古文書・図書を正式に移管
		県庁から明治期の行政文書で、教育関係事務簿・県史稿・会計課事務簿・土木課事務
昭和6年•7年		簿、大正期の各町村郷土誌·など寄贈(※寄贈台帳では昭和 10 年 7 月付)
	_	『郷土志料目録』(昭和11年3月末現在)刊行、県庁から寄託されていた奉行所文書・明
昭和 11(1936)年	3	治期の行政文書(県庁文書)は寄贈資料として掲載
昭和 17(1942)年		江戸時代に桶屋町乙名を務めていた藤家の古文書を寄贈受入(藤家文書)
昭和 18(1943)年	3	県庁から明治期の行政文書(勧業・土木・外務関係ほか)を寄贈受入
昭和 20(1945)年	8	原爆被害。図書館の焼失は免れるが、爆風で屋根は大破、蔵書の被害は水濡れ約3000冊、市内貸出中の約1000冊、県下各地に配布中の文庫資料約1万冊。県庁舎は原爆後の火災で全焼。このときまでに奉行所文書や明治期の県庁文書の大部分を引き継ぎ、焼失を免れた。県庁の機能はこの年の3月に立山の防空壕を仮庁舎として移転していた。
1774日 05/1050)左		(10月15日から閲覧業務再開。)
昭和 25(1950)年	2	文書用度課保管の明治期県庁文書を受入(職員録、統計表、公報など)
昭和 25(1950)年	5	立山にあった県庁舎の大火
昭和 29(1954)年	3	『郷土資料目録』(昭和 28 年 3 月末現在)刊行。
昭和 33(1958)年	11	郷土資料叢書として「大村藩郷村記」刊行はじめ(中断の後、昭和 57 年国書刊行会より刊行)
昭和 35(1960)年	3	『郷土資料目録 増加目録』
昭和 35(1960)年	10	A TOP TO THE STATE OF THE STATE
昭和 38(1963)年	3	県立長崎図書館50周年記念誌の別冊として『史料撰集』刊行
昭和 40(1965)年	3	前年より2カ年かけて『郷土資料目録』再編、上下2冊刊行
昭和 41(1966)年		明治百年を記念して文書館建設の計画が浮上・古文書史料解読の講習会開催はじめ
昭和 42(1967)年		議会史編纂のため収集した資料が一括移管され受入 この年以降、対馬の古文書を調査採録してマイクロフィルム化
昭和 43(1968)年		文書館構想を変更して郷土資料室の拡張整備(4階を増築)、史料課を新設
昭和 46(1971)年	3	『原水爆関係新聞記事索引』刊行
昭和 47(1972)年	2	『郷土関係新聞記事索引』刊行、藤野繁雄氏資料寄贈(藤野文庫)
昭和 50(1975)年	1	『郷土資料目録』増加補遺の部1(昭和 48 年 3 月 31 日現在)、刊行
昭和 57(1982)年		神代鍋島家文書寄贈受入
昭和 58(1983)年		雲仙公園事務所資料移管受入
昭和 59(1984)年	2	『郷土資料目録』増加補遺の部2(昭和 58 年 3 月 31 日現在)、刊行
昭和 63(1988)年	3	郷土史料を紹介する『長崎県の郷土史料』刊行
平成 5(1993)年	4	史料課を郷土課に変更
平成 13(2001)年	3	郷土史料叢書として史料の翻刻刊行開始、最初は『安政二年萬記帳』刊行
平成 17(2005)年		江戸時代の古文書・明治期の行政文書・各種文庫資料などを長崎歴史文化博物館へ移 管
平成 20(2008)年		植木元太郎旧蔵資料寄贈受入
令和 4(2022)年	3	郷土資料センター開館(公文書コーナー併設)

〔1〕明治27年(1894):長崎文庫の創設

明治26年9月、安中半三郎と香月薫平は、地域の文書資料が散逸するのを危惧して文庫創設を計画しました。その設立趣意書には「本邦文化の源は実に我長崎に在り・・・然るに其古文書や将に年を逐ふて亡失せんとす」とあります。安中らは文庫創設の委員に大森鐘一知事・北原雅長市長をはじめ、松田源五郎・西道仙など地元の名士を募り、翌27年長崎文庫が創設されました。明治29年に一般公開され、当初、資料の閲覧は有料でした。

安中半三郎墓碑(左端)本蓮寺境内



〔安中半三郎 嘉永 6 年(1853)~大正 10 年(1921)〕 父為俊の創業した「虎與号」(出版・書籍等販売業)を継ぎ、長崎市会議員・商業会議所議員として活躍した実業家。古文書の散逸を懸念して図書館設立に奔走したり、県立盲啞学校の前身となる施設を運営するなど社会福祉事業の先駆者でもあった。趣味として「素平連」という狂句狂歌の会を主宰し、句集を出版するなど、明治の長崎を代表する文化人の一人である。県立長崎図書館の前身である長崎文庫を香月薫平らとともに創設した。墓碑には「嘗患古文書之散佚、与同士謀興長崎文庫」と刻まれている。

(参考「『長崎文庫』創設始末 上」大庭卓也・田村隆、九大日文第三号)

「然るに其古文書や将に年を逐ふて亡失せんとす」(明治26年9月12日付鎮西日報「図書館の設立」)

「●図書館の設立 に就て長崎に図書館なきは其大欠点なりとて前年当地有志の設立にかかる長崎人会にても文庫建設を其目的の一に加へ、去八月の常集会に機愈熟したれば、着々実行の緒に就くへしとの事に決し、目下適当なる場所捜索及ひ閲覧手続調査中なるか今や安中半三郎氏も亦長崎文庫設立を企図し、已に大森鐘一北原雅長等諸氏の賛助を得、尚有志の人々に檄を飛はし、弘く賞成員募集中なり、今安中氏より寄せられし設立趣意書及方法等を左にかかぐ

本邦文化の源は実に我長崎に在

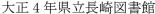
り、西洋諸国の始めて日本帝国を識るも亦た我長崎に在り、故に各種の学術及ひ貿易上の沿革を知らんと欲 せは則ち我長崎に求めさる可からす、<u>然るに其古文書や将に年を遂ふて亡失せんとす</u>、近くは聖堂の蔵書の 如き既に已に乱散せり、豊に惜しむへきに非すや・・・・・・」

(旧字体は適宜新字体に替え句読点を追加)

〔2〕大正4年(1915): 専任館長永山時英就任から戦中・戦後の資料収集

官民の熱意が基盤となり、明治45年6月、県立長崎図書館が新橋町に誕生しました。大正 4年には現在地に移転して、専任館長として鹿児島の七高造士館(現:鹿児島大学)教授であった永山時英を迎えました。永山館長および2代目館長増田廉吉のもとで、県庁に保管されていた江戸時代の奉行所文書や明治期の行政文書が本館に移管されました。この頃、資料収集では、古賀十二郎・福田忠昭・渡辺庫輔など郷土史家が果たした役割も大きく、その多くはのちに県立長崎図書館の蔵書となりました。







永山時英・増田廉吉著作

(3) 長崎奉行所関係文書、それに続く明治以降の県資料の収集

長崎の行政に関わる資料は、江戸時代の長崎奉行所関係文書が大正8年に、明治の県庁文書 (公文書)は、その多くが昭和10年代までに図書館に移管されました。原爆後の火災により 県庁舎は焼失したものの、江戸時代の古文書や明治期の行政資料の多くが残ったのは、事前に 図書館に移管され、かつ図書館が焼失を免れたことが大きかったのです。現在、その行政資料 は平成17年に開館した長崎歴史文化博物館へ移管されています。そのうち長崎奉行所関係資 料は重要文化財に指定されました。また、明治以来の県公報や統計書・職員録などは、戦後 (昭和25年)に県から寄贈されています。



旧県立図書館内で保管されていた犯科帳 (現在:長崎歴史文化博物館収蔵)



明治期 統計書・職員録

〔4〕郷土資料の整理・目録作成・翻刻

収集された資料は整理し、目録を作成し、それを公開することによって、多くの方々が利用できるようになります。大正12年、昭和11年、戦後も昭和29年、昭和40年に郷土資料目録を刊行しています。そのほか、『史料選集』『長崎県の郷土史料』などおもな資料の内容紹介や、『原水爆関係新聞記事索引』『郷土関係新聞記事索引』など索引の充実、また、『大村藩郷村記』『安政二年万記帳』などの翻刻事業を実施してきました。昭和40年代には県下全域の近世史料の所在調査を実施しています。

郷土資料目録等

- 1 郷土志料目録 大正12年
- 2 郷土志料目録 昭和11年
- 3 郷土資料目録 昭和28年
- 4 郷土資料増加目録 昭和35年
- 5 史料撰集 昭和38年
- 6 長崎県立長崎図書館郷土資料目録 上巻 (昭和39年3月31日現在)
- 7 長崎県立長崎図書館郷土資料目録 下巻 (昭和40年3月31日現在)
- 8 長崎県立長崎図書館郷土資料目録 増加補遺1 (昭和48年3月31日現在)
- 長崎県立長崎図書館郷土資料目録 増加補遺2 (昭和58年3月31日現在)
- 10 長崎県の郷土史料 昭和63年※昭和63年4月、目録を電算化して稼働

<mark>郷土史料翻刻</mark>

- 1 大村藩郷村記 昭和33年
- 2 安政二年万記帳 (郷土史料叢書 1) 平成 13年
- 3 幕末・明治期における長崎居留地外国人名簿 1・ 2・3 (郷土史料叢書 2・3・4) 平成 16 年
- 4 長崎奉行所分類雑載 (郷土史料叢書 5) 平成 17 年 ※翻刻事業は長崎歴史文化博物館へ引き継がれる

新聞記事索引

- 1 原水爆関係新聞記事索引 昭和 20 年 8 月一昭和 1 45 年 12 月 昭和 46 年
- 2 郷土関係新聞記事索引 昭和 45 年 12 月末日現在 昭和 47 年

※平成19 (2007) 年以降の郷土関係新聞記事見出し索引については、ホームページ上からエクセルファイルとして記事リストを提供

〔5〕特徴のある郷土資料

現在、郷土課で所蔵する特徴のあるまとまった資料群として、植木元太郎旧蔵資料があります。植木元太郎は明治から昭和期にかけて活躍した実業家・政治家で、島原鉄道の創設者です。資料は植木氏のご子孫より一括して、平成20年に寄贈を受けました。そのほか日本最初の国立公園であった雲仙公園を管理する事務所の旧蔵資料や南高来郡神代村(現雲仙市)出身の参議院議員藤野繁雄氏旧蔵資料(藤野文庫)などがあります。



植木元太郎旧蔵資料・雲仙公園事務所旧蔵資料



藤野文庫(書架の様子)

〔6〕長崎ゆかりの文学

明治期までの古文書史料が長崎歴史文化博物館へ移管された平成17年以降、特に「長崎ゆかりの文学」として、郷土出身の作家や長崎を舞台とした文学作品等の資料を多く収集してきました。その中には自筆原稿や作家のサイン本などがあります。

長崎ゆかりの文学として所蔵する原稿(一部)

	Control Harriston A. Ada H. A. W. BB	- 11
〔芥川 竜之介/筆〕	〔原稿〕芥川龍之介 鏡花全集開口	7枚
〔市川 森一/筆〕	〔原稿〕市川森一 ゴールデンボーイズ ―青春コント狂時代―	164 枚
〔伊東 静雄/筆〕	[原稿]伊東静雄 詩作の後 小さい手帖から	2枚
〔井上 光晴/著〕	〔原稿〕井上光晴「かきと春菊」	13 枚
〔岩松 了/筆〕	〔原稿〕岩松了 泡一流れつくガレキに語りかけたこと	231 枚
〔潁原 退蔵/筆〕	〔原稿〕潁原退蔵 雜俳用語考(一)	15 枚
〔おおえ ひで/筆〕	〔原稿〕おおえひで 一寸坊のむこさん	20 枚
〔太田 大八/画〕	〔原稿〕太田大八 南極探検物語挿絵	11 枚
[風木 雲太郎/筆]	[原稿]風木雲太郎 諫早讚歌	8枚
〔神近 市子/筆〕	[原稿]神近市子 お仙の縁談	65 枚
〔斎藤 茂吉/筆〕	〔原稿〕斎藤茂吉 市井集序	7枚(2つ折)
〔佐多 稲子/筆〕	〔原稿〕佐多稲子 飛鳥路(飛鳥を訪ねる)	34 枚
〔清水 崑/筆〕	〔原稿〕清水崑 漱石と私	38 枚
〔白石 一郎/筆〕	〔原稿〕白石一郎 異人館	1251 枚
〔立花 隆/筆〕	〔原稿〕立花隆 私の読書日記	18 枚
[田中 千禾夫/筆]	〔原稿〕田中千禾夫 処女作とその後	3 枚
〔野呂 邦暢/筆〕	〔原稿〕野呂邦暢 草のつるぎ	158 枚
〔林 京子/筆〕	[原稿]林京子 祭りの場	4枚
〔福田 清人/筆〕	〔原稿〕福田清人 愛犬とボール	2枚
〔福田 須磨子/筆〕	〔原稿〕福田須磨子 原子野の中のひとりごと	1枚
〔藤浦 洸/筆〕	〔原稿〕藤浦洸 郷里平戸	4枚
〔丸山 明宏/著〕	〔原稿〕丸山明宏 後弁天	6 枚
〔村上 龍/筆〕	〔原稿〕村上龍 限りなく透明に近いブルー	1枚
〔山本 健吉/筆〕	〔原稿〕山本健吉 天草で考えたこと	32 枚
〔吉田 絃二郎/筆〕	〔原稿〕吉田絃二郎 黒ん坊白ん坊(つべき)	22 枚
〔吉村 昭/筆〕	[原稿]吉村昭「戦艦武蔵」取材日記	415 枚



長崎ゆかりの作家の自筆原稿



サイン本



ユーモア屑箱 (旧制長崎中学校学生の同人誌)

〔7〕長崎県内の行政資料

現在も日々作成されている県内各地方自治体の行政資料をできるだけ収集しています。県公報はもとより県議会資料・各課発行の報告書類、さらには各市町で発行された広報誌などを多く収蔵しており、今後も収集に努めていきます。







県議会議事録等

県公報

県内各市町広報

[8] 映像•画像資料

今後さらに積極的な収集に取り組む資料として、紙媒体だけではなかなか残らない情報をふくむ映像資料や音源・画像資料があります。フィルム、テープなど、アナログ資料はできるだけデジタル化して収集・保存に努め、長崎の姿を後世に残していきます。



長崎風景写真(水野幸一氏寄贈)



地域映像資料

令和4年3月27日作成 長崎県立長崎図書館郷土資料センター 〒850-0007 長崎市立山1丁目1-51

https://nagasaki-lmc.jp